













腹腔鏡下手術（嚢腫核出術・付属器切除術・筋腫核出術・子宮内膜症病巣除去術・癒着剥離術・子宮外妊娠術）を受けられる方へ

	入院日	手術前日	(手術前)	手術当日	(手術後)	手術後1日目	手術後2日目	手術後3日目	退院前日	退院
目標	体温・血圧・脈拍が安定している。 手術についてわかる。				お腹の管から出る液の色や量が正常である。 痛み止めを使って痛みをやわらげます。	傷から血や液が出ていない。病棟内歩行が出来る。		傷に、赤み・腫れ・痛みがない。	退院後の生活の注意点がわかる。	
説明	看護師から、入院生活や手術前後の経過や処置について説明します。 	(主治医より) 手術について説明します。 (麻酔医より) 麻酔、手術前の食事や水分摂取について説明します。 同意書をお渡しします。署名後、看護師にご提出ください。	ご家族は、手術に出る時間までには病院にお越し下さい。 	主治医から、手術の結果について説明があります。 	医師の記入が必要な書類などありましたら、平日日中に1階玄関ホールにある診断書受付までお出しください。 			(看護師より) 退院後の生活について説明します。 (主治医より) 退院後の外来受診や服薬などについて説明します。		
検温	 適時	1回	6時・手術室へ行く前	帰室時 1・2・3・6時間後 それ以後翌日6時まで4時間 毎(指示有り)	4回	4回	1回	1回		
排泄	15時から尿量測定を始めます。	尿量測定を続けてください。		手術中、尿道カテーテルを入れます。	動けるようであれば、尿道カテーテルを抜きます。 歩けるようなら病棟内トイレにて排泄をします。 尿量測定を続けてください。			尿量測定は15時で終了です。		
処置		お臍のそじをします。 夕食後浣腸があります。	6時以降に浣腸があります。 午後より手術の場合、朝より点滴があります 	酸素を付けて帰室します。 背中に痛み止めのチューブ、お腹にドレーンの付く場合があります。 点滴は主治医の指示あるまで持続します。	採血、採尿があります。 朝、酸素投与を中止します。 動けるようになったら、弾力ハイソックスを脱ぎます。 医師の診察があり、創の消毒をします。 点滴は夕方まで持続です。	お腹のチューブを抜きます。 痛み止めがなくなれば、背中に入っているチューブも抜きます。	採血、採尿があります。 	創部の抜糸をする場合があります。 医師が診察します。		
準備	必要物品を購入してください。 (T字帯1枚・ナプキン) 看護師がお預かりします。	身の回りの荷物を一つにまとめ床頭台上に、ナプキン1袋、パンツ1枚、体温計、ティッシュ等をセットしておいてください。	朝起きたら、弾力ハイソックスを履き、病衣に着替えておいてください。 下着はパンツのみつけます。					何でもご相談ください 		
投薬	内服している薬は続けて服用してください。手術のため、内服薬をお預かりします。 眠前に緩下剤を内服します。 	眠れない時は眠剤を処方しますので、お知らせください。 	麻酔科医の指示で手術前に安定剤の内服のある場合があります。	術後、喉の痛みにはトローチをお渡しします。 						
安静	制限ありません。			ベッド上安静。膝を立てたり腕を動かしたりはかまいません。体の向きも変えても構いませんが、難しいときは看護師が介助します。	病棟内トイレまで歩けます。最初は看護師がそばで見守ります。	病棟内は制限ありません。	院内は制限ありません。			
食事	制限ありません。	屋食より低残渣食となります。	食事は食べられません。 水分摂取は麻酔科医の指示に従ってください。		朝から水分開始、昼からは重湯が開始になります。 	朝・昼が5分粥、夕からは全粥になります。 	昼から普通食になります。 			
清潔	入浴可能です。				体を拭いてお下も洗います。お手伝いしますが、出来る範囲でご自分でも拭くようにしましょう。着替えもします。	体を拭くタオルをお持ちします。出来る範囲でご自分でも拭くようにしましょう。トイレでウォッシュレットをご使用ください。 	シャワー浴開始です。			

緊急腹腔鏡下手術(嚢腫核出術・付属器切除術・筋腫核出術・子宮内膜症病巣除去術・癒着剥離術・子宮外妊娠術)を受けられる方へ

	手術当日	手術後1日目	手術後2日目	手術後3日目	退院前日	退院
目標	体温・血圧・脈拍が安定している。 お腹の管から出る液の色・量が正常である。 痛み止めを使って、痛みをやわらげます。	痛み止めを使って、痛みをやわらげます。 病棟内歩行ができる。 お腹の管から出る液の色・量が正常である。 傷から血や液が出ていない。		痛み止めを使い痛みをやわらげます。 傷に、赤み・腫れ・痛みがない。	傷に、赤み・腫れ・痛みがない。 退院後の生活の注意点が分かる。	
説明	(担当医より) 手術の結果について説明します。 	 医師の記入が必要な書類などありましたら、平日日中に1階玄関ホールにある診断書受付までお出してください。		 何でもご相談ください	(看護師より) 退院後の生活について説明します。 (主治医より) 退院後の外来受診や服薬などについて説明します。	
検温	帰室時 1、2、3、6時間後 それ以後翌日6時まで4時間毎 	 4回	4回	1回	1回	
排泄	尿道留置カテーテルから自然に尿が出ます。	動けるようになったら、尿道留置カテーテルを抜きます。 病棟内トイレにて排泄します。 尿量測定を続けてください。		尿量測定は15時で終了です。		
処置	酸素を付けて帰室します。 背中に痛み止めのチューブ、お腹にドレーンがつく場合があります。 点滴は主治医の指示あるまで持続します。	採血、採尿があります。 朝、酸素投与を中止します。 動けるようになったら、弾力ハイソックスを脱ぎます。 医師の診察があり、創の消毒をします。 点滴は夕方まで持続です。 	医師の診察の後に、お腹のチューブを抜きます。 痛み止めがなくなれば、背中に入っている痛み止めのチューブも抜きます。	採血、採尿があります。 	創部の抜糸がある場合があります。 医師の診察があります。	
投薬	喉の痛みに対し、トローチを渡します。 					
安静	ベッド上で過ごします。 膝を立てたり寝返りをすることができます。 起き上がることはできません。	病棟内トイレまで歩けます。 最初は看護師が傍で見守ります。	病棟内は制限ありません。	院内は制限ありません。		
食事	食事水分も摂ることはできません。 ベッドに寝たままうがいをするすることができます。	朝から水分開始、昼から重湯が開始です。 	朝・昼が5分粥、夕から全粥になります。 	昼から普通食になります。 		
清潔		体を拭いてお下も洗います。 お手伝いしますが、出来る範囲でご自分でも拭くようにしましょう。 着替えもします。	体を拭くタオルをお持ちします。 出来る範囲でご自分でも拭くようにしましょう。 トイレでウォッシュレットをご使用ください。 	シャワー浴開始です。 